

小児看護師を対象にした看護倫理教育プログラムの開発



看護学科（小児看護学）
看護学研究科（小児看護学）

やま した さなえ
山下 早苗

●連絡先 TEL：054-202-2916 FAX：054-202-2916
E-Mail：y-sanae@u-shizuoka-ken.ac.jp

キーワード

看護研究

看護倫理, 小児看護, 看護教育, 看護実践,



看護倫理は以下の問いに応えるものだと思います。

- ・どこに立って（自分の役割）、その状況をみているか？
- ・誰に対して責任を果たさなければならないか？
- ・責任を果たすためにどの様に行動するか？
- ・どの様な人でありたいか？

看護倫理は看護実践と共にあり、「看護師としての生き方」そのものです。

小児看護において看護師は、目の前にいる子どもの最善の利益を守る責任があります。そのため小児看護実践では、親との価値観の対立、医師との価値観の対立、治療の是非やインフォームド・アセント（コンセンツ）の是非、子どもの尊厳に関する苦悩など、様々な倫理的問題に遭遇します。

看護師が子どもの advocater として倫理的責任を果たせる様に支援する必要があると考え、「小児看護師を対象にした看護倫理教育プログラムの開発」研究に取り組んでいます。具体的には、看護倫理教育における視聴覚教材の開発、評価尺度の開発、ワークショップの開催を行います。

倫理的な能力のある看護師とは

看護倫理学者であるAnn Gallagherは、倫理的な能力について5つの構成要素を述べている。

- ①倫理的に【知ること(知識面)】
- ②倫理的に【見ること(知覚面)】
- ③倫理的に【振り返ること(内省面)】
- ④倫理的に【行うこと(行動面)】
- ⑤倫理的に【あること(資質面)】

出典: Anne J. Davis, Verena Tschudin Louise de Raevé編集 小西恵美子監訳。
看護倫理を教える・学ぶ、日本看護協会出版会

近代看護の創始者ナイチンゲールの 「よい看護師」としてのあり方

「天使とは、美しい花をまき散らす者ではなく、
苦悩する者のために戦う者のことだ」

出典: Florence Nightingale: 湯積ます 翻訳, 薄井担子翻訳。
看護覚え書, 現代社



Florence Nightingale
(1820～1910年)

アピール ポイント

看護倫理教育を行う上で、視聴覚教材の開発やワークショップ開催にご協力くださる企業を探しています。